

北山ただお 市会報告

「北山ただおのホームページ」、フェイスブック毎日更新中



日本共産党山科区生活相談所 607-8344 京都市山科区西野大手先町 8-8 TEL 591-7851 FAX 595-8698



敬老乗車証の制度を守れ！ 地下鉄ホーム柵設置を！

市会産業交通水道委員会で質疑

6月22日、京都市会産業交通水道常任委員会が開かれ、交通局から今後10年間の経営方針を示す「新たな経営ビジョンの骨子案」が示されました。私が以下の内容で質疑を行いました。()が答弁内容です。



- この「ビジョン」については市会での議論が不足しているので審議継続を。(正副委員長で判断)
 - バスの混雑解消対策。今後の乗客数の見通し。(全局あげて取り組んでいる)
 - 市バスも地下鉄も日本一高い運賃であり、黒字を活用して運賃の値下げを。(考えていない)
 - 敬老乗車証の制度維持を。(保健福祉局に伝える)
 - 烏丸線の可動式ホーム柵の全駅設置を。(計画で示す)
 - 地下鉄に対する国への要望をしっかりと取り組むことの決意を。(全力で国に申し入れている)
- *公共交通に対する予算要求や制度改善については、あらゆる機会を通じて求めていくこと、乗客サービスの向上や経営改善に努めていく努力についての表明がありました。しかし、国への要望では腰が引けている印象が否めません。

地震対策に全力

6月18日発生の大阪北部地震は、京都市内でも被害が出、被害のひどい伏見区淀地域を、党市会議員団で現地調査しました。



3班に分かれて調査に入りました。被害に遭ったお宅に入らせていただいたところ、室内の壁にひびが入ったり、壁の一部やお風呂のタイルがはげ落ちるなど大変な被害状況でした。

行政からは誰も来てくれないので、とりあえずの応急措置をされている方が多く、罹災証明についても「よくわからない」という方もありました。

「市がなかなか来てくれない」「どうしてよいかわからず不安」「台風が来たらどうしたらよいか」等、不安を訴える方が大半でした。

調査を踏まえてその日の夕方、京都市長に対しての第二次申入れを行いました。

京都市は、通学路に沿ったブロック塀の改修に最大15万円の補助を決定しました。また、大阪府北部地震災害の屋根の修理にリフォーム制度が使えますので議員団にご相談ください。

他都市調査

産業交通水道委員会、同じ政令市の岡山市、福岡市、熊本市に調査に行き、中小企業振興条例や交通事業、下水汚泥固形燃料化事業などについてお聞きしました。いづれの市においても市民生活を支える努力がよくわかりました。



農業品評会に参加

7月1日山科区役所で、山科区農業祭農産物共進会主催の「平成30年度山科区農業祭」が開催され、褒賞授与式に出席しました。



会長さんや審査員長の寺林府立大教授、さらに農協組合長のお話では、今年はお天気にも恵まれて農産物の出来がよく、生産量も多いとのことでした。

安価な農産物の輸入や「野菜離れ」などという都市農業は厳しい環境にあります。こうした取り組みによって農業振興を図ることは大変重要です。「豊作貧乏にならないようにしたい」とのお話がありましたが、計画的な栽培や価格の安定化、農業収入の拡大などに取り組んでいきたいです。

党創立記念講演会に190人

日本共産党創立96周年・京都東地区委員会40周年記念講演会が、アスニー山科で開催され、190人の参加で大きく成功しました。



最初は、森真子さんによる舟歌です。いつもの澄んだ声で楽しませていただきました。スライド「東地区のあゆみ」では、以前の写真が出ると「うわー若いな」とか「懐かしいな」の声が漏れてきます。私もご挨拶しました。

来年の参院選で京都選挙区から勝利を目指す倉林明子参院議員が、この間の活動や国会での質疑などを交えて必勝の決意を表明され、その後、倉林参院議員、大門参院議員、本庄府議、山本市議、北山でそろい踏みを行いました。

最後は、大門みきし参院議員が来年の二つの選挙をたたかう意義や、森友・加計学園問題、安倍政権の危険な政治の内容、選挙勝利に向けての決意などを記念講演されました。

平和大行進

2018原水爆禁止世界大会成功に向けての「国民平和大行進」(東京～広島)が京都入りしました。山科駅前のラクト公園で滋賀県の行進団から京都行進団への引継ぎ式が行われ、実行委員会代表、通し行進者、被爆者代表の方などからご挨拶と平和大行進の成功に向けての決意が訴えられました。前日の雨から一転して好天となり、ラクト公園を出発した平和大行進は、三条通りを西進し東山区の東大路通りを南下、四条通を西進し河原町を北上して京都市役所まで歩きました。

途中、歩行者から手を振っての激励や、マンションの窓から子どもさんが手を振っていただいたり、外国人観光客の方が写真を撮りながら手を振るなどの激励が相次ぎました。たっぴりと汗をかきましたが、核廃絶への確信を深めた行進でした。

